

生命の科学で未来をつなぐ

J-PARCにおける原子核乾板を用いたテスト実験 (原子核乾板検出器を用いた 低エネルギーニュートリノ反応の研究)

小川、渋谷、福田 東邦大学 三角 日本大学 佐藤、北川 名古屋大学

Contents:

低エネルギーニュートリノ検出に適した、 efficiency が高く、高感度な乳剤を開発 し、最適な乾板を手に入れるために、名 大の乳剤製作、乾板製作(ペース下処理 など)のチームと連携して、最適な乾板 を作製して(究極の)ニュートリノ検出器 に 仕上げたい。



- 先行研究紹介(OPERA、PEANUT)
- 開発研究(FTS、ハドロン反応研究)
- 原子核乾板検出器ECCによる電子検出
- J-PARCにおけるニュートリノ実験
- まとめ



原子核乾板検出器 ECC



OPERA ECC (57 emulsion layers)

- シャワー粒子をµmで分離可能
- サンプリング厚と標的物質を調整可能
- 100-200個で1tonの標的を構成可能



電子ニュートリノ反応解析(OPERA)

ECCは、NCm⁰反応によるバックグランドが低い。



N. Kitagawa et.al. (OPERA Collaboration), JHEP07(2013)004.



PEANUT実験@NuMI

PEANUT(2005~2008)@NuMI
OPERAのリハーサル実験(PEANUT RUN1)





ECC 中に再構成されたニュートリノ反応

* S. Aoki et al., New Journal of Physics 12(2010)113028

- PEANUT RUN2における電子ニュートリノ解析 \rightarrow 北川さん
- 低エネルギーv解析を行い、解析フレームワークを確立する。

システマティックなECC解析 ハドロン反応詳細解析@ Toho



	10GeV	4GeV	2GeV
Reconstructed tracks	2215 tracks	907 tracks	584 tracks
Total track length	38.5 m	12.6 m	8.5 m
Interactions	173 events	68 events	77 events

Topological analysis of hadron interactions in ECC



ECCの標的を変えて、ニュートリノと様々な物質の相互作用を調べる。

P152実験(水標的ECC)

がん治療用炭素ビーム

放射線医学総合研究所、GEANT4日本グループ(KEK, SLAC)、 宇宙科学研究所、東邦大学、名古屋大学の共同プロジェクト



FTS @Toho 自動飛跡認識技術の高度化研究



・ 面面のの "原子核乾板における新しい自動飛跡認識技術"



Emulsion spectrometer (ENS)@ Toho

原子核乾板検出器技術の高度化研究





Test beam : 15mm gap, B = 1T

C. Fukushima et al., Nucl. Instr. and Meth. A 592 (2008) 東邦大学

ニュートリノ実験施設@J-PARC



On axis or off axis



Neutrino beam @J-PARC

Beam power : 235kW (2012Oct~) -> 1MW ~3x10²⁰ pot delivered in 6 months

Expected event rate: 170 k events / 10²¹ pot / ton

このレベルでのニュートリノ反応 詳細解析は早い段階で可能。

- v_u反応断面積測定 - v. 反応断面積測定 (V。混入率測定)



- - + >1.2x10¹⁴ppp (1.5x10¹³x8b) is the world record of extracted protons per pulse for synchrotrons.

東邦大学

- Data for today's talk: 6.39x10²⁰pot (by Apr.12). 6.63x10²⁰ by May.8.
 - Statistics has been doubled successfully compared to the previous analysis (3.01×10²⁰pot)

*「T2Kの最新結果」山田善一、日本物理学会2013年秋季大会

ニュートリノビームラインにおけるテスト実験

	Mode	E	L	L/E
LSND	$\nu_{\mu} \rightarrow \nu_{e}$	30MeV	30m	1
MiniBooNE	$\nu_{\mu} \rightarrow \nu_{e}$	500MeV	500m	1
	$\nu_{\mu} \rightarrow \nu_{e}$	(<300MeV)		(1.5)
NuMI	$\nu_{\mu} \rightarrow \nu_{e}$	3GeV	1km	0.3
(PEANUT)	$\nu_{\mu} \rightarrow \nu_{e}$			
T2K	$\nu_{\mu} \rightarrow \nu_{e}$	500MeV	280m	0.5
		1.2GeV	280m	0.23
OPERA		17GeV	735km	43
CHORUS		27GeV	0.8km	0.03

¹³ ENSの活用により積極的なv_e/v_e識別で解析を精緻化



- ニュートリノ反応は、10²¹ pot の照射で170 k events / ton 程度期待される。
- HTS(速度)により、十分なスキャンニング能力は得られる。
- 低エネルギー電子の高い検出能力は必要。
- ▶ 新乳剤
- FTSの開発
- GRAINE実験でも開発
- ▶ PEANUT Run2の解析
- まずは、J-PARCでテスト実験
 展開:
- □ エマルションスペクトロメータによるv_e、v_eの分離。
- □ 標的物質依存性の研究。

